

第 27 号 進歩性について 〔別冊パテント第 3 号 発行日：平成 22 年 3 月 19 日〕

目 次

【(I) 総論を中心とする研究】

【(II) 比較法を中心とする研究】

- ・米国特許法における非自明性：K S R 最高裁判決の歴史的意義とその後の判例法への影響 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 竹中 俊子 50
 - ・間接事情（セカンダリー・コンシデレーション）を考慮するE P Oやドイツの進歩性判断の手法を日本においても採用することについての一考察 ・・・・・・・・・・・・ アインゼル・フェリックス＝ラインハルト 68

【(Ⅲ) 各論的論点を中心とする研究】

- ・既存機能ないし方式の組み合わせと言える発明の進歩性 ・・・ 松本 直樹 79
 - ・本件発明を超える効果の参酌について ・・・・・・・・・・・・ 本庄 武男 89
 - ・引用文献に記載の発明の実施可能性 ・・・・・・・・・・・・ 小合 宗一 100

【(IV) 各技術分野毎の分析を中心とする研究】

- ・日本とEPOにおける“Obvious to try”適用事例の比較 ・・ 塩澤 寿夫 109
 - ・電気関連発明についての進歩性判断手法の検討—進歩性を肯定した最近の判決例の分析— ・・・・・ 佐藤 祐介 119

研究員（敬称略、役職は報告書作成当時）

会員外研究員 大渕 哲也（東京大学法学部・大学院法学政治学研究科教授）

高林 龍（早稲田大学法学部・大学院法務研究科教授）

中山信弘（明治大学特任教授・弁護士・東京大学名誉教授）

竹中俊子（ワシントン大学ロースクール教授・早稲田大学法科大学院客員教授）

平嶋竜太（筑波大学大学院ビジネス科学研究企業法学専攻准教授）

松本直樹（弁護士）

相田義明（特許庁審判部）

会員内研究員 佐藤祐介（弁理士）

牛久健司（弁理士）

田中成志（弁護士・弁理士）

杉村純子（弁理士）

富岡英次（弁護士・弁理士）

AINZEL・FERRICKS=LINEHART（弁理士）

田中昌利（弁護士・弁理士）

大野聖二（弁護士・弁理士）